

ごみを減らそう!!

資源ごみが泣いている…



資源ごみの中の異物。
プラスチック製品、プラスチック容器トレーが山のよう。



穴を空けなければそのままの危険なスプレー缶も多い。

CONTENTS

- ◆ 特集 1 _____ ②
京都市の資源は、いま・・・。
- ◆ 特集 2 _____ ⑤
「ごみ問題」、いっぺん言うてみたかった!
- ◆ ごみ減NEWS _____ ⑥
市民向けごみ減量実践講座ほか
- ◆ 行政からのお知らせ _____ ⑧
平成13年度ごみ処理事業報告
- ◆ Report _____ ⑨
観光客と宿泊施設と農家の「共生」
- ◆ 会員探訪 _____ ⑩
京都YWCA・ダイニック株式会社
- ◆ Series 「やっています。わたしの住む前で、ごみ減らし」 _____ ⑫
桂川地域ごみ減量推進会議
正親地球温暖化防止協力委員会

資源としてリサイクルされるはずの缶・びん・ペットボトル。毎週1回、約1万2千拠点で63万世帯分が資源回収されているが、資源でない異物が混じったり、キャップが外されていないなど、誤って出されるケースが後を絶たず、缶・びん・ペットボトルを選別し、資源として送り出す中間処理施設が困り果てている。(詳しくは、中面の特集へ)

缶・びん・ペットボトル。 京都市の資源は、いま…。

～現場の声を聞く～

◆出席者

北川倫子氏 (機軸施設・再資源化中間処理施設 京都市橋大路学園 園長)

今井正雄氏 (京都市南部資源リサイクルセンター、京都市橋大路福祉工場 工場長)

竹内久雄氏 (山頂学区こみ減量推進会議 会長)

■異物混入や危険物について

あるわあるわ、
資源の中に入り込む異物、火災や
事故やけがの発生も

北川



協会へ引き渡しています。白・茶は有価ですが、いずれのびんも再資源化のためには異物除去を徹底しなければならず、特にキャップがついていると引き取ってもらえなかつたりします。また、耐熱ガラスや化粧品びんの混入も後を絶やしません。残渣カレットは、もう出口がありません。リサイクルの用途がないものは埋め立てるしかありません。

今井…7割の資源ごみを扱っています。本来は橋大路学園と違って、分別回収された資源を機械で自動的に90数%まできちんと選別しますが、現状では、機械で選別できないことが多く、99年に開設しましたが、稼働当初は実に、故障も多かった。原因は異物がたくさん入りすぎていた。自動化した流れ作業ですから、異物は故障の原因になります。異物の大きなものは機械で取り除かれるが、小さなものは人手で取るしかなく、従業員に苦勞をかけています。

竹内…異物の中には生ごみやプラスチック製品の他、危険なものもあると聞きます。事故などは発生しているのでしょうか？

今井…昨年の11月13日、火災が発生しました。ビニール袋に入れられてきたシンナーに着火したようです。私どもは毎年2回火災訓練を重ねてきましたから、すぐに対応し、消火できましたが、初期対応ができていなければ、大災害になっていたところですよ。

北川…橋大路でも揮発性のスプレーで火

災になったことが。スプレーは1日1000本以上入っています。本来、穴を開けて中身を使い切り、通常の家庭ごみに出さなければなりません。資源ごみに出している上、その半分に穴があいていません。使い切らずにそのまま出すと、ガスが残り爆発します。スプレー缶は製造元が回収してリサイクルして欲しい。

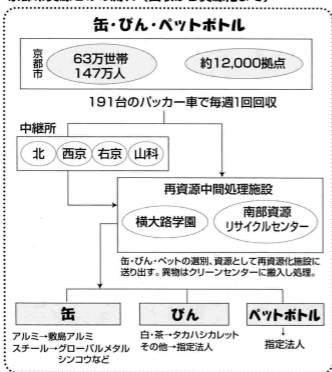
今井…スプレー缶は穴さえあけてもらえば、一次処理して、後は業者に引き取ってもらえます。

北川…一度、希硫酸が出てたことが。外に流れなかつたけど、あれが袋袋で破れていたら想像すると胃腸が凍ります。正体不明の黄色い粉の染料が入ったこともあります。くさくて嘔吐しそうです。化学物質も恐いですね。界面活性剤入りのパイプ清掃剤が、作業服の上か



02年12月16日、市南部資源リサイクルセンターにて、広瀬浩輔実行委員長、今島正氏もオブザーバーとして参加。

京都市資源ごみの流れ（回収から資源化まで）



らかかったことがあり、皮膚が赤く腫れ、痛がるので、うろたえました。缶、びん、ペットは、中を洗い流してから出すことになっていますが、特にパイプ清掃剤はすすいで家庭ごみに出してもらわないと、非常に危険です。

今井…異物で一番困るのは、クリーニングの針金ハンガーです。破袋除袋機に引っかかると機械が止まってしまいます。ハンガーを回収してくれるクリーニング屋さんへ、聞えればいいのですが、テレビのコードや延長コードなども機

械に絡みつき、止まってしまふことがあります。家電製品はかなりあります。バラで出された水道製品もハンマーをつぶします。

北川…つりのテグスなど機械に絡んで止まったことがあります。古釘も困ります。しょうゆとか汁物も箱に入ったままだと、コンベアに流れ出てローラーがさびてきます。

今井…ペンキも困ります。事務用のホックキスの針とかクリップのようなものも、磁選機にかからないのです。

■出し方や回収方法について

黒い袋やレジ袋ではなく
透明な袋に入れてほしい

今井



竹内…資源ごみの出し方などについては、どうですか？私どものごみ減量推進会議では、きちんとルールを守って出すよう呼びかけを行い、バトロールもしているのですが。

今井…京都市の場合、市民へのごみ分別収集方法の不徹底から異物が混入している、最近では異物が大型化して、タイヤチェーンやエアコンの室外機まで、収集されてきます。以前には収集した消火器が破裂したことがあります。

竹内…レジ袋に入れて出されていることが多いようです。それに、黒い袋もちょこちょこあります。入れてはためと規制されているわけではないので使う人が後を絶たないようです。

今井…黒い袋は禁止すべきです。中に、何が入っているかわからない。再資源センターに運ばれると、まず破袋除袋機を通り、袋を破るわけですが、袋が統一されていないので、いろいろな問題が発生し

ます。ごみ袋というのは、タテに裂けるようになっており、角張ったものを入れると裂けます。

京都の場合、7割くらいがスーパーのレジ袋を利用されています。レジ袋は丈夫なもので、うまく破れないことがあります。透明な袋に入れてほしいものです。資源ごみの回収は2週間に1回が適当だと思います。

竹内…前日の夜に出すから悪い。その日の朝に出せばいい。ごみは無名でだれが出したのかわからないところに意識が育たない要因があるように思います。や、こしいものや、あれこれ言われるなら、一般ごみに入れたらいいと思っている人が多い。現場で注意したら、「もうええや、そんなんようせん」と返された。

北川…個人のフライパシーとか言っている時代ではないと思います。名前を書けばいい。資源ごみにはフライパシーはないと思います。

今井…収集作業員の方は、せっかくなのでこの袋には異物が入っているから、収集できません」というシールがあるのですから、使って欲しいものです。

京都市では、3種混合方式を採用しており、3種混合で分別できる機械を作りましたが、あまりにも機械に負担をかける異物が混入しています。市民一人ひとりがどのよう分別するか、どのように処理するか等、意識を持って資源回収について、町内で議論してくださいとお願したい。

東部山間埋立て地がなくなってきたとき、

**資源ごみ徹底作戦を
2月から開始、
回収のモデルをめざします**

竹内

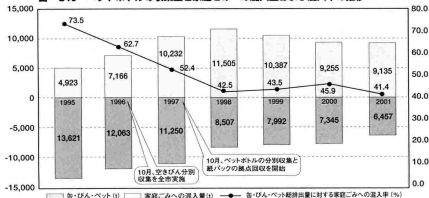


■当面の課題
北川：一般ごみの中に混入している資源ごみも問題。きちんと分けてもらって、横大路学園も助かります。アルミ缶で食いつないでいる当学園としては、アルミ缶の抜き取り対策を何とできないかと。

京都市のごみはどこへ行くのか。京都市民には危機感がない。最終的には、自分たちの税金負担となる。これに気がついてもらわないと。
京都市では15年前に、ごみの再資源化中間処理施設を知的障害者を持つ人たちの働く場所と位置づけ、横大路学園を開設しました。これはとても重要なことです。また、南部再資源リサイクルセンターは、知的障害者の福祉工場でもあり、労働者としての賃金保障をされています。仕事につき汗をかいて自立できるということ。全国の市町村に関心を与え、各地からの見学が後を絶たない。福祉対策の発想の転換です。

切実に思います。今までのように工賃が払えない、売却収入の多少に関わらず京都市からの運営費補助が行われているはずですから、京都市も非常事態宣言をしているからとこらもろえはいいのか。資源ごみも京都市の財産です。京都市は、障害者対策として横大路学園を作った経緯もあり、何らかの対策が待たれます。ベットの、増えるばかり。今の容法では製造者がペットボトル協議会にお金を払えばいくら作ってもいいというシステムです。横大路学園ではベットの売却収入はありません。中間処理業として京都市から少しお金をいただいて処理しているのが現状です。
今井：資源であるアルミを一般の家庭ごみに出すと、クリーンセンターでは大変困るようです。機械に影響を与えらる間きます。
市民一人ひとりが資源という意識を持たないと。現状を見ると、資源が国の日本のごみの分け方ではない。
竹内：いろいろの問題があります。2000年から、かれこれ3年間、資源ごみ回収日にステーションを回り、パトロールをしてきました。ルールが守られていないとわかって、きつくないえない。あくまで自主的にやっているだけです。なんの権限もないから曖昧なものです。明確な権限を与えてほしい。パトロールの効果、やる方の意気も高まるというものです。私も川東学区ごみ減量推進会議では、この2月、資源ごみ徹底作戦

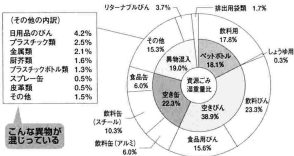
缶・びん・ペットボトルの収集量と家庭ごみへの混入量および混入率の推移



に取り組みます。学習会も開き、パトロールも強化します。資源ごみ回収のモデルとなるよう努力します。

資源ごみの排出実態

一資源ごみの組成（混入率比）
どんなものが含まれているのか。重さで見ると。



缶・びん・ペットボトルの再資源化量 (単位: トン)

	平成11年	平成12年	平成13年
缶	4,069	3,532	3,203
びん	2,161	1,889	1,842
ペットボトル	1,287	1,425	1,642

市民向けごみ減量実践講座 第1回見学会で資源ごみの処理施設を視察

昨年度に引き続き、全市キャンペーン実行委員会、地域活動支援実行委員会の共同企画で、市民向けごみ減量実践講座が開催され、第1回は施設見学・横大路学園と南部資源リサイクルセンターで、缶・びん・ペットボトル中間処理施設を見学した（平成14年11月1日（金）午後実施、29名参加）。

第2回は、講演会「グリーンコンシューマーが創る環境都市」ごみを減らして豊かになろう！くりくが開かれ、講師の藤村聡氏（京（みや）のアジアエンタ21フォーラム事務局チーフコーディネーター）の熱弁に参加者33名が聞き入った。

第3回は平成15年2月7日（金）17時21分、会員のみなさんの指導で「エコクッキング」を実施した（参加者は19名）。会場は、ウイングス京都。



第1回見学会で



第2回講演会では藤村聡氏を招いた。

リユースびん検討チームが 酒屋さんマップづくり

5年前に発足し、規格統一されたジュースびんの共同購入システムを確立させるなどの取組を実施してきた「リユースびん検討チーム」が、平成14年度全市キャンペーンの事業として、リユースびんを扱う酒屋さんのマップづくりを進めている。

もともと一升びん（時価）、ビールびん（5円）は有償で、どの酒屋さんでもお金と引き換えに引き取ってくれた。しかし、現代ではシステムが崩れ、資源ごみとして捨てる人も少なくない。酒屋さんの負担も大きく、引き取りを断る店もある。市民にリユースを促すことが、このチームの目標である規格統一された共通びんの普及につながるとして、今でも負担をいとわずリユースシステムを守っている酒屋さんを知ってもらうため、マップづくりを進めることにした。京都府小売酒販組合連合会、京都硝子壺問屋協同組合との協働で作業を進め、1行政区別に30数件の酒販店を網羅した地図としてまとめることになった。完成予定は5月。区役所、エコロジーセンター等で配布予定だ。



新しい資源ごみ減量活動、リユースびんを呼びかける。



講師を務める今西さん（京都府小売酒販組合連合会会長）



高月会長が出前？ スーパー店頭で環境ミニ講演会を開催

杉並区のレジ袋税の制定や、日本チェーンストア協会によるレジ袋NOデーの全国展開など、レジ袋削減の動きが広がるなか、京都市ごみ減量推進会議では、昨年12月5日午後、レジ袋をテーマにした環境講演会を行った。全市キャンペーン事業の簡易包装キャンペーンの一環として企画したもので、買い物客が集中する夕刻をねらい、買い物客に京都市ごみ減量推進会議オリジナルの買い物袋を配布。講演会への参加と同時にレジ袋削減を呼びかけた。

まず、地元聖護院学区地域ごみ減量推進会議今西会長が講演。超多忙な中を駆けつけた当会議高月会長が、漫画を用いたクイズ形式で参加者から回答を求めながら、楽しく講演した。会場となったイズミヤ・カナート洛北店米田副店長が「レジ袋を削減しよう」と呼びかけ、締めくくった。

堆肥づくりの仲間が集った 悩みが話し合える場となった



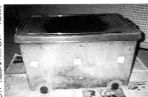
「これが私のコンポスト」
家庭の生ごみ堆肥の作り方交流会（京のアジェンダ21フォーラム主催）が昨年11月24日（日）（みやこ）エコロジーセンターにて行なわれた。「第一部」は学習会。午後からの「第二部」は交流会の構成。

講師に、有機栽培農家であり、堆肥・育土研究所主宰の橋本力男氏を迎え、日頃からコンポスト作りに取り組んでいる主婦仲間、男性、市民団体、学生など約30人が、生ごみの性質、堆肥とは…から始まり、堆肥化の流れ、発酵過程、土作り、そして堆肥の利用法まで細かく説明を受けた。2時間では足りないほどだった。

失敗事例や、堆肥の判定法など、目の前の悩みに応える情報に参加者は聞き入っていた。例えば「衣菜ケースの生ごみ処理」というリサイクル方法は、透明ケースであるため、太陽光が利用でき、手に入れやすく丈夫である、つまりお金をかけないで、自然の力を利用するという利点があるなど。

集分や、農薬、食品添加物など、たえず頭を悩ます問題への質問に対し、「出来上がった堆肥を園地で使う分には問題ない」「疑問点について意見交換ができ、悩みも解決した」、「コンポストを作っている仲間が増えた」と参加者は満足げな表情だった。

（田中真砂世）
（次ページの生ごみ処理方法）



加悦町、八木町へバスの旅 ごみの有効利用施設を視察

〜ごみ減量実践講座見学会〜

おから堆肥化工場の前で説明を聞く



おからからできた堆肥。地元で使われる



秋日和に恵まれた10月16日（水）京都府内でごみ減量の先進事例を学ぼうと2施設を訪れた。まずは、生物系廃棄物再資源化システムを導入、地元の豆腐工場から排出されるおからの堆肥化を進める「加悦町有機物供給施設」を見学。

目標は、地域内完結循環型農業の確立であり、ここで生まれる天然肥料は、地元の農家に販売し有機肥料による土づくりを進めている。

午後、八木町バイオエコロジーセンターへ。乳牛、糞尿、食品工場の植物性廃棄物をメタン発酵させ、さらに消化ガスが発生させ、発電を行う同センターは新エネルギーシステムのモデルとなっている、全国的に注目され「全国から見学者が殺到している」といふ。ごみは、資源であり、エネルギーでもある。そうした実感した一日となった。

エコロジーはエコノミーごみ減量実践講座 HONDAより講師を迎え、開催

急速に取組が進む大手企業の環境対策。なかでもグリーンフアクトリフプロジェクトをいち早く創設するなど、HONDAは前向きな取組を見せてきた。その事例に学ぼうと11月14日（木）午後、同プロジェクトリーダーの大石秀樹氏を招き、講座を開催した（会場は京都商工会議所2階教室）。商品づくりから社会貢献まで、次世代を視野に入れた総合的なビジョンに基づく環境対策は、今後の循環型社会、持続型社会下の企業のあり方を示す好例であり、「どういう手法で社内に浸透させたのか」など、参加者からも活発な質疑があった。



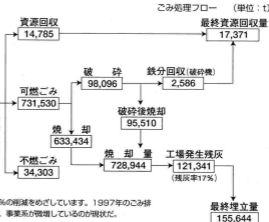
HONDAから講師を迎えて

古川町商店街が KES認証取得に、 キック・オフ！

環境にやさしいまちづくりを目標する古川町商店街が、「京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム」が推進する「KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）」の認証取得へ向けて準備を進めることになった。来る3月7日コンサルテイングを受け、審査に備える。古川町商店街のKES認証取得に向けての動きに刺激され、大塚通り商店街などもKESに意欲を見せている。

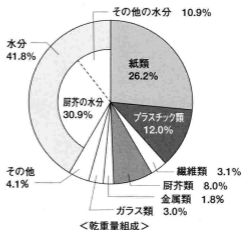
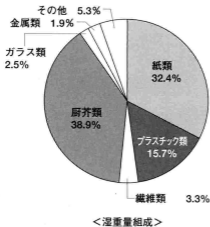
京都市は、このほど 平成13年度ごみ処理事業についてまとめた。

ごみ処理実績

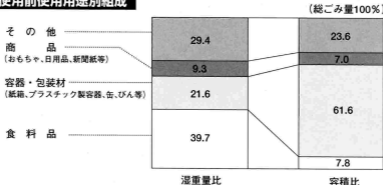


京都市は、ごみ減量目標を2010年までに1997年比15%の削減をめざしています。1997年のごみ排出総量は796,368tであり、家庭ごみは減少傾向にあるが、事業系が増えているのが現状だ。

家庭ごみの物理的組成



排出使用前使用用途別組成



環境にやさしい宿泊施設の実現に向けて 観光客と宿泊施設と農家の「共生」

「宿泊施設で出た厨芥・残飯を堆肥化し、その堆肥を使ってできた農作物（以下「リサイクル作物」）を宿泊施設で提供する料理に用いる」—これが、2001年度深井ゼミの一番の「セールストーク」。私たちの考えていた「循環システム」だ。

ホテルや旅館など、宿泊施設から出る廃棄物の30~40%は、厨芥・残飯、いわゆる生ごみであり、特に、婚礼や宴会を催す大規模ホテルにおいては、廃棄物の80%の量を厨芥・残飯が占めている場合もある。すなわち、宿泊施設が自身の環境負荷を削減するためには、この厨芥・残飯類の減量対策がなされるべきなのだ。

「環境にやさしい宿泊施設」—2000・2001年度の2年間、このテーマのもとに、環境に配慮した宿泊施設のあり方や、観光客と宿泊施設と農家を結ぶ循環システムの形を追究した。2000年度の調査報告書「京の岐路」の提言の検証を主たる目的とした。2001年度の調査報告書「京の道しるべ」での提言の中から、厨芥・残飯の減量、再資源化に関する主なものを、以下で紹介したい。

＜観光客と宿泊施設＞

◆ 食材の有効利用

野菜の皮や皮、茶殻など、普段あまり料理に用いないものを、工夫して調理することで、厨芥を減量することができる。このような料理を客に出すことに、抵抗感を示した料理人もいたが、74.5%の観光客が「賛成」と回答しており、宿泊施設の調理場で積極的に取り組めることと考えてよい（図1、2参照）。

図1 野菜の皮や皮、茶殻などできるだけ
だけ廃棄せず調理することについて
(料理人)

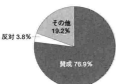
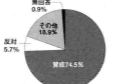


図2 普段とり入れない成分を調理することについて (観光客)



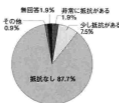
◆ 食事の量や内容の事前相談

事前に客と宿泊施設の間で、食事について相談をし、客の要望に合うだけの料理を提供することで、残飯の発生を抑えることができる。これについて宿泊施設の料理人の大半が「賛成」、観光客の大半が「抵抗なし」と、答えたこと（図3、4参照）、また事前相談は客の要望の把握と無駄なサービスの削減にもつながることから、これは宿泊施設で今すぐにも取り組める環境対策である。

図3 客と事前に料理の量や内容を
相談することについて



図4 食事の量を事前に相談すること
について (観光客)



素材を無駄なく使うことや食事の事前相談は、実際にはすでに実行されていることも多く、欠けているのはそれが環境対策になるという視

点だけだ。客の要望を知るためにも、客の協力を促すためにも、観光客と宿泊施設の間で、互いの理解を深めることが不可欠である。

＜宿泊施設と農家＞

◆ 厨芥と残飯の分別

もしも「循環システム」が確立されるなら、農家の宿泊施設に対しての一番の要望は、異物混入を防ぐ分別の徹底だ。宿泊施設の料理人の調査において、厨芥は調理場で、残飯はホテルではホール担当者が、旅館では仲居が処理しているという話が聞かれたことから、厨芥と残飯との分別は可能であり、味付けされていない厨芥のみを堆肥化すれば、農家が求める成分の明確化も期待しやすいと言える。

◆ 堆肥の成分や作物の安全性についての互いの理解と協力

宿泊施設の料理人も、農家も、双方が不安を抱えているのは、「安全性」だ。しかし、料理人が責任を持って分別して厨芥を提供すれば、それのできた堆肥にも、リサイクル作物の安全性にも自信を持てるのではないだろうか。さらに、宿泊施設がリサイクル作物を積極的に仕入れれば、農家にとっては「宿泊施設が自信を持って堆肥原料を提供している」という安心感につながる。宿泊施設と農家が、堆肥の成分や作物について、互いの要望を理解しあい協力することで、安全性と安心感を確保できるのである。

私たちの調査報告書において、観光客と農家の二者間の関係性について特に提言はしていないが、例えば宿泊施設が側にとって、情報収集や情報提供に努めれば、リサイクル作物の普及や、作物の生産者と消費者の距離をより身近にすることに貢献できるだろう。

観光客と宿泊施設と農家が、互いの要望をより深く理解し、環境対策についての理解と協力関係を築くことで、観光と環境の「共生」と、さらには観光と環境をキーワードにした、三者間の「共生」を実現できるのではないだろうか。また、この「共生」は、京都の観光産業の持続可能な発展のユニークなスタイルとしても、期待できるのではないだろうか。



▲ゼミ集

会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれで構成される京都市こみ減量推進会議。今回も2団体の活動を取材しました。

取材：浅利美鈴（京都大学環境安全センター 大学院生）

京都YWCA

Q「京都YWCA」とは？

A 1885年にイギリスで始まったYWCA（キリスト教女子青年会）は、京都では1923年にスタートしました。京都YWCA（以下当団体）は、主に女性の視点から見て必要となる身近なところから認識し、同時に政策への提言や実現のための行動も行う団体です。当団体は、全ての人が尊重され、自然と人間が共存できる世界を身近なところから創りだしていくことを目的に活動を進めています。この目的に賛同し、活動に参加をご希望される方なら、どなたでも会員になれます。

Q「スリフトショップ」とは？

A 当団体はスリフトショップ（リユースセール）を28年間続けてきました。スリフト（right）とは「節約（節約）」の意味。「使い捨て」ではないリユースで資源を活かす暮らしを心がけたいという思いを込めています。スリフトショップの始まりは、1970年、京都国際学校でカーフ・ロイスさんがお母さん達に呼びかけて子供達の服の交換会を始めたのが最初です。同時に、まだ手に入りなかった手作りケーキの材料やチーズを仕入れることも始めました。1975年から当団体に場を移し、現在は毎月第一・三土曜日の午前11時から午後1時開催しています。皆様から頂いた寄贈品を安価に提供し、要らない人から必要とする人への物の循環を行っています。

Q「すごい種類と分量ですね！」

A 明日は冬のバザー（通常のセールの拡版）です。子供服、婦人服、紳士服、和服、食品、おもちゃ、アクセサリー等々、様々なコーナーを設けています。どれも多量の方から心のこもった寄贈品で、モノというより心のやりとりという感じですね。明日は足の踏み場もないくらいのお客様になるんですよ！みなさん、大ブッシュンションを繰り返して気に入ったものを購入していただけるのです。バザーでは他にも、生産者の顔が見える商品を国内外から集めた売店や、世界の食堂でも楽しんでいただけます。収益は、滞日外国人のための電話相談、日本語教室、地域小学校への異文化理解への出張授業などの活動資金にさせていただきます。



バザーを見える服店

Q「可愛い人形：これもゴミ減量の立役者？」

A リユースにも限界があり、スリフトショップやバザーでも売れ残る品物があります。その一部は国内のホームレスの方、海外ではカミナ、モリゴルの方へお送りします。しかし、それにも限界があり、処分しなければならぬ物が増え、しまいが現状です。そこで私たちの立場からできることを色々考えました。リユースだけでなく、捨てられるモノをもっと一度作り替えて、モノの命の生きる社会へ」というメッセージを、大量生産、大量消費への警鐘の意を込めて、一針心を込めて作った作品です。現在は販売しておりませんが、オーダーメイドのような

形で、商業ベースではできない心の通う取引ができれば良いなあと考えています。

Q「今後の活動に向けて？」

A まず、私たちの活動、スリフトショップのことをよく知ってもらって利用して頂きたいと思います。そのためには、私たちみなさんのニーズに応えられるような心遣いをしなければなりません。後、若い仲間を増やしたいというのが切実な願いですね。気の若い女性でわいわい楽しく集っていい場所が、やはり身体を使う作業は辛いこともあります。サボリして一緒に盛り上がりつつ頂ける方に加わってもらえると嬉しいですね。



アクセサリーもこの通り



取材に応じて下さったスリフトショップの副代表美子さん（右から2番目）、カーフ・ロイスさん（中央）メンバーの皆さん（手前）人形の前で

準備も楽しい



京都YWCA

事務局：

〒602-8019 京都市上京区室町通水上上ル
TEL: 075-431-0351 FAX: 075-431-0352
e-mail: kyoto@ywca.or.jp

設立：1923年

2002年度会長：坪野えり子

スリフトショップ代表：カーフ・ロイス

会員：約200名

活動テーマ（様々なグループ活動を展開）：

「共に生きる世界をめざす」

すべての人が尊重され、自然と人間が共存できる世界を身近なところから創り出していくことを目的に、親子のプログラムや滞日外国人支援など様々な活動を進めています。

取材日：2002年12月6日



生分解性プラスチック製品

PETボトルのリサイクル製品



取材に応じて下さった京都本社社長 上村勉二さん(右)
京都本社事務部長 北川俊次さん(左)

ダイニック株式会社

Q ダイニックとは？

A ダイニック(以下、当社)は、書籍カバーの素材等を製造する「日本クロコ工業」として創業し、その技術を環境紙や様々な繊維製品へと展開して参りました。当社は2000年に創業30周年を迎えましたが、「新世紀に臨むにあたっては「環境」と「情報」を二本の柱にすえております。地球環境の保全は企業活動の中心テーマになってくると思えます。当社は積極的に環境保全に取り組む地域社会との共生を目指しております。具体的に第一に、企業活動によって地球に「やさしくない」「モノを排出しないこと。第二には地球に「やさしい」モノ造りをもって環境保全に貢献してゆきたい、このように考えております。

Q 地球に「やさしくない」モノを排出しないとは？

A まず原料などの無駄をなくすが大前提ですが、出ってしまったモノについては、リユースしたり、適切にリサイクルしたりして、ごみ減らしに努めています。例えば、当社の代表的製品である塩ビ製の壁紙については、製造工程で発生する廃棄物を使用し、再生・加工をするシステムを構築しています。壁紙屑は粉砕・分離し、粉塵なども全て回収し、床材や造音シート材、植木鉢などの再生原料となります。このシステムは、1994年10月リサイクル協会会長賞を受賞しました。その他にPETボトルやパソコンキーボードのリサイクルシステムを有しております。

Q すこい分別ですなね!?

A 滋賀工場及び埼玉工場内で発生するごみの分別数は約30種に上ります。滋賀工場では1997年8月に、埼玉工場では1998年12月にISO14000認証取得しておりますが、この分別はその取り組みの中でたどり着いた形式です。リサイクル率を上げてごみを減らすためには、素材に

ごみの分別



応じて分けるのが必要不可欠なということですね。このような取り組みを通じて社員意識が大きく変わってきたと思います。

Q 地球に「やさしい」モノ造りとは？

A 地球に優しい素材を目指して、天然素材のパンチカーペット、脱脂ビークロス・フーアロン、再生紙使用のクロス・タスシリーズや生分解性プラスチックなどの数々の製品を生みだしております。例えば、生分解性プラスチックとしては、トウモロコシなどを主体として澱粉と脂肪族ポリエステルを成分とした「オーベル・コーンシート」を製造しております。これは、小学生用のランドセルカバーや交通安全フック、山林の火災表示看板などとしてもご利用いただいておりますが、もしも地面や山林に落ちたとしても分解して土に還りますので、環境を汚染する心配がありません。

Q 今後の展開は？

A リサイクルについては、様々なシステムを運用してきましたが、今後よりユースにも力を入れていきたいと思えます。現在立ち上げているのが使用済みのレーザープリンタのトナーカートリッジリサイクルサービスです。回収後、再利用・再資源化すること、廃棄物の大幅な削減だけでなく、コストダウンも実現できます。万全のサポートで対応することにより、皆さまも安心してご利用いただけると思います。また、将来的にはエアコンや空気清浄機などのフィルターのリユースなども眼中に入れております。

現在ダイニックのグループ会社は国内7社、海外8社の15社で形成しております。このグループの力を最大限に活かして、新しいモノ創り、新しいサービスの創造で、新しいモノとして未来に向かっけて更なる飛躍を目指して参ります。

ダイニック株式会社

京都本社所在地：
〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26
TEL：075-313-2111 FAX：075-313-2116
URT Home Page：http://www.dynic.co.jp
創立：1919年
資本金：57億9600万円(2002年3月31日現在)
売上高：275億円(グループ含み593億円)(2002年3月31日現在)
事業内容：出版用クロス、文具紙工品用クロス、コンピュータリボン、ファインフィルム、磁気通帳用クロス、各種印刷・印字用素材、カーペット、壁紙、衣料用接着芯地、不織布、自転車内装材、ターボリン、各種ファッション商品、名刺・葉書プリントシステム、などの製造・販売
従業員：650名(グループ含み2,200名)(2002年3月31日現在)

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

あせらずじっくり 地域の理解を得てスタート

桂川地域ごみ減量推進会議

少し風の冷たい晴れの朝、会長の原田昭治さんはご自宅の前でこやかに出迎えて下さった。玄関の門柱には今月の廃油回収日の書かれたアクリル板が掛けられ、その前に回収用のポリタンクが置かれている。看板は、補助金を利用して作成し回収拠点になる家に配布している。少しお話しを伺っている間にも、廃油を入れたビンを手にした男性や女性が次々とやって来ては油を入れていく。

桂川地域での使用済み天ぷら油回収の取り組みは、学区内の各自治会を基盤にして始められた。当初、ごみ減量推進会議を立ち上げるまでの7カ月間は、



地元の理解を得るためアンケートをとったり学習会を開いたりして何度も話し合いを重ね準備を進めたという。4年前の開始当初15カ所だった回収拠点は現在24カ所に増え、回収量も年間1300リットル前後と地元の活動として定着してきている。原田さんは、地区別・月別に廃油回収状況集計表も作成している。「次もきばってや言うて励みにしてほしいです」。

このほか地域では、桂川河川敷の清掃やごみ減量学習会、不法投棄への対応などさまざまな活動を行っている。今後は地域の方を講師に小中学校でごみの分別方法の指導などもしてほしいとのことだ。

- ◆会長：原田昭治
- ◆会員：1900名
- ◆発足：平成11年8月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月第2日曜、午前10時～午前11時。自治会の役員宅など24カ所です。



門柱にかかっているのが、毎月回収日を書き換えるだけで便利なアクリル製の看板。たまに破損することもあるので補充が必要とのこと。右が原田さん。

集中準備で効率運営、 回収方法システムがっちり

正視地球温暖化防止協力委員会

会の名称が「正視ごみ減量推進会議」ではない。その訳は「会の発足が、ちょうど地球温暖化防止京都会議（COP3・97年開催）のあとだったから。それに廃油を集めてディーゼル燃料にするのだから、ごみより温暖化対策の方がわかりやすいと…」と、会長の城戸雅宏さん。第二せいしん幼児園の園長である城戸さんは、4年前の98年に5カ月の準備期間を経て同会を立ち上げ、使用済み天ぷら油の回収を開始した。



「高効率の中、各自目標に協力してやっています」と、城戸さん。

「近くは回収場所があれば、めんどうくささが解消されて回収率は上がる」と回収拠点を多く設けたこと、また朝から夕方までの回収が功を奏し、年間の回収量はポリタンク100缶分、2000リットルにもなるという。城戸さんは毎年、年度はじめに各地区の担当者の名簿と回収日の年間カレンダー、詳細な回収拠点の地図を作成して会員に配布している。大変な作業だが、これをきっちりやっているから会議は年2回でいい。また業者への引き取り依頼の連絡は随時、各町内担当委員から会長へ、会長からレポ・インターナショナルへ、とのルートで行われている。煩雑なようだが一番確実なところだ。

廃油の回収を始めてから、幼児園では紙ごみが減ったり小学校では先生方が子どもたちに廃油回収について話をするなど少しずつ広がりも出てきた。活動は順調だが補助金が減る4年目に入り、やりくりは大変という。「ポリ缶はもう少し小さい方が年配の方も持ちやすい。じょうごもあればいいですが」と城戸さん。

- ◆会長：城戸雅宏 ◆会員数：1900人
- ◆発足：平成11年4月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：毎月1日、15日（但し、日・祭日の場合は変更あり）午前9時～午後5時。回収拠点は各町内の34カ所。



京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう! No.22

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2003年(平成15年)2月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局環境企画部循環型社会推進課内
TEL. 075-257-5053 FAX. 075-213-0453
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会
委員長/寺島晃 副委員長/宮本時江
実行委員/浅利美鈴・大場真三・大橋正明・芝田直樹・田中真砂世・中島和子・西田敏光・前田純一・森田知寿子・山本忠史

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により平成8年11月に設立した団体です。パートナーシップで多様な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

- | | |
|---|-------------------|
| 市民（市民団体・消費者団体・環境団体等）
専門家（学識経験者等）
地域ごみ減量推進会議 | 1口1千円
(年間1口以上) |
| 大学・マスメディア・事業者団体
企業等・行政 | 1口1千円
(年間2口以上) |

詳細は、事務局へお問い合わせください。

古紙100%の再生紙（白色ア70）に大豆インクで
風力発電による自然エネルギーを用いて印刷しています。

